

長生炭鉱の遺骨発掘へ！

みんなの力で

坑口を開けよう！

スタート集会



2024年7月15日（月・休）



14:00～14:30 ピーヤの見える海岸でスタート集会

雨天決行！

「刻む会」の決意

韓国遺族会からのアピール

14:30～16:30 坑口付近の

### 草刈りと清掃活動

地元の方々の証言で、坑口があった場所はゴミ捨て場になっていたという話があります。不法投棄もあったようです。みんなできれいに片づけましょう。

片づけたらいろいろな発見があるはず！



この場所を掘ったら坑口出てくるかな？

旧本山炭鉱坑口

1940年当時、長生炭鉱と同規模の炭鉱



(2017年12月16日 内岡撮影)

★暑い時期なので、各自熱中症対策をお願いします。

★追悼ひろば前からピーヤの海岸まで無料送迎車あり

(詳細は裏面を参照下さい)

【主催】長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会(共同代表 井上洋子 佐々木明美)

<https://www.chouseitankou.com/>

事務局 755-0031 宇部市常盤町 1-1-9 宇部緑橋教会内

【お問い合わせ先】 090-4803-5319 (井上) [Mail] zenken@aqua.plala.or.jp

## ちょうせいたんこう 長生炭鉱水没事故

床波海岸の海から突き出ている二本のピーヤ（排気・排水筒）は、かつて、この地に長生炭鉱という海底炭鉱があった名残です。

1942年2月3日朝、坑口からおよそ1km付近の坑道の天盤崩壊で海水が浸入し、坑内労働者183人が犠牲になりました。そのうち7割にも及ぶ136人は日本が植民地支配した朝鮮半島から強制連行された、あるいは生活苦から渡日を余儀なくされた朝鮮人でした。

この事故は戦争遂行のために安全を度外視して石炭を掘り続け、「尊い命」が犠牲となった人災であると言わざるを得ません。事故直後、二次災害を防ぐためとの理由で坑口はふさがれ、その後、坑口が何処にあったか分からない状況になりました。遺体は引き上げられることなく、今なお、冷たい海の底に眠ったままです。

事故から80余年が経過し、事故当時お腹の中にいた子どもも80歳を超え、ご遺族にとっては待たなしの状況です。人道的見地から考えれば、一刻も早くせめて坑口を開けて調査を開始することが私たちに求められています。

## 駐車場及び会場のご案内

車は追悼ひろば前の床波漁港横空き地に停めてください。



二本のピーヤ（排気・排水筒）  
このピーヤが見える海岸が  
集会場です。  
坑口も近くにあります。



長生炭鉱追悼ひろば  
集会場までの無料送迎車は随時  
運行します。集会参加者の送迎  
は13:50までに駐車場でお待  
ち下さい。



坑口を開けるためには、工事費等、多額の費用が必要です！  
皆様、カンパをよろしくお願ひします！

（備考欄に **坑口カンパ** とお書き下さい。）

郵便振替 口座番号 01590-7-32405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

（ゆうちょ銀行 店番 159 店名 一五九 口座番号 0032405）